

—あいなん音故地新—

「十年、偉大なり。」

十年偉大なり。二十年畏るべし。三十年歴史になる。五十年神の如し。これは中国に伝わる格言。好きなことをしているとあっという間に十年を超えてしまうもので、音楽の道を選んでからはとつくに十年を過ぎてしまった。そして自分の誕生日に合わせて毎年開催するライブイベント。いわゆるコンサートも今年で10回目となる。偉大がどうかは置いて、笑。まさかこんなに続くなんて思ってなかった。ひとつひとつ回を重ね、時を重ね、気がついたらもう十年。先を見すぎんかったから続けてこれたのがもしれん。もし初回から10回続けるぞ! って決めてたら、続けれんかったやろな。

小学生の頃の長距離走で、電信柱を目指して走れって教わった。たどり着いたら次の電信柱を目指せ、って。そうやればいつのまにかゴールが近づいてる、って。そんな感じやったんやろな。手の届くところに目標が見えるとそこまでは頑張ろうって思えるもんね。

ここでは何度も言うところけど、続けるって大切。続けることで見えてくる世界があるけんね。また今日から次の電信柱、目指して行こ!

(テノヒラkiku)

あいなん物産探訪 その③

「ショウガ」

尾崎農園

ますよし
尾崎 益善さん
(御荘平城)



十数年前に関東から帰郷して農業をはじめた尾崎さん。ショウガの生産は8年ほど前に開始し、現在は御荘長月の農地など計4か所で生産している。「最初は手探りで始めて、慣れるまでに数年はかかりました」と苦労を話す。日々の草引きや水やりのほか、台風時にはネットを張るなどの対策を施し、丹精を込めてショウガを育てている。

愛南町は気候が温暖なため、4月に種を植えて、収穫を行う11月頃まで長期にわたり栽培することができる。そのため、糖度が高くて熟成したショウガを生産することができ、食べた

人からの評判も非常に良い。「ショウガ焼きなども美味しいですが、お茶やみそ汁に入れる方もいるようですよ」と、血行を良くし体温を高める効果があるので特に女性に好評という。

「愛南町は柑橘に比べて野菜農家が少ないでしょう。

もっともっと若い人たちが農業をやれるようにしたい。ショウガが愛南町の特産品になれば良いですね」と期待を込める。



▲尾崎さんが丹精を込めて育てたショウガ